

2023年
海外トピックス
東南アジア

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

求められる静岡県の地震対策（インドネシア）

11月下旬、アジア各国の自治体関係者が集う国際会議「東アジア地方政府会合」へ出席する出野副知事に随行し、西ジャワ州を訪問した。

訪問団の飛行機がジャカルタに到着する数時間前、西ジャワ州チアンジュール県で大規模な地震が発生。首都ジャカルタや州都バンドンでは大きな被害はなかったものの、雨季で地盤が緩んでいた現地では多くの方が被災した。

大規模な自然災害の発生直後であったことから、副知事とカミル西ジャワ州知事との会談は静岡県の地震対策が中心的なテーマとなった。会談中にメモをとりながら出野副知事の説明に聞き入るカミル知事の姿が強く印象に残っている。また、政府会合終了後の現地メディア向けの記者会見でも、静岡県の防災への取り組みについて多数の質問が寄せられた。西ジャワ州に対する支援の可能性について質問を受けた副知事は、防災先進地である静岡県として、西ジャワ州の職員を対象にした研修プログラムの提供が可能であることを回答した。

今回の西ジャワ州訪問は、悲惨な自然災害の発生と重なったものの、西ジャワ州関係者と久しぶりに対面で交流・議論をしたことで、これまでの関係を再確認するだけでなく、新しいネットワークを築くことができた。覚書を交わした「人材育成」、「経済」分野を中心に、同州とウィン・ウィンな関係を継続できるよう東南アジアからサポートする。

経 済

新しい訪日観光マーケットの開拓（カンボジア）

12月中旬にプノンペン中心部のイオンモール・イベントスペースで開催された日本観光展に参加し、主催者であるJNTOブースの一部を借りて県内の観光地を紹介した。

カンボジアの人口は約1,700万人。主な産業は、農業や縫製業。また、1人当たりGDPは1,600米ドルとシンガポール（73,000米ドル）、タイ（7,200米ドル）といった訪日インバウンドの強い国と比べるとまだまだ低い水準だ。しかし、プノンペン中心市街地にはシンガポールかと思いがうような高層ビルが建ち、ヨーロッパの高級車が多数走っていた。

イベントに出展していた現地の旅行会社に聞き取りをしたところ、カンボジア人が日本を訪問するためには、ビザや2,000米ドル程度の費用が必要で、まだまだ一般の方が簡単に訪日旅行へいける状況ではないそう。日本の旅行商品としてはゴールデンルートが一般的で、希望があれば、オーダーメイドでショッピングなどをテーマにしたツアーを作ることもあるとのことだった。ショッピングモールのメインの客層は、訪日旅行のターゲットとも重なる所得の高いカンボジア人に加え、欧米や他の東南アジア出身の外国人。日本の観光情報が少ない状況であるので、静岡県の観光地についても興味を持って聞いていただいた。

静岡へ訪問いただく新しい層を開拓するため、既存の訪日マーケットだけでなく、新規マーケットも含め幅広く静岡の魅力をPRしていく。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

シンガポール人が好きなブランドは？

英国の調査会社ユーガブが2022年のシンガポール・ブランドランキングを発表した。評価基準は、印象、品質、価値、満足度、人に勧められるか、評判という要素を計算したものだ。

首位はシンガポール航空、2位はショッピー（ECサイト）、3位はユニクロ、4位以下は、グーグル、ワッツアップ、チャンギ空港、フェアプライス（スーパー）、ガーデズバイザベイ（植物園）、CNA（テレビ局）、ユーチューブと続く。

トップ10のうち6社がシンガポール、3社がアメリカ、1社が日本のブランドだ。各国の一流企業がアジア拠点を置き、世界中の品物が簡単に購入できるシンガポールで自国ブランドを好む人がこれだけ多いことが興味深い。それだけシンガポール製品に自信と安心感を持っているということだろう。

同時に発表された「2022年に改善された」ブランドランキングの上位には、ドン・ドン・ドンキ（ドン・キホーテのシンガポール店舗）とポッキーがそれぞれ7位と9位に位置している。シンガポールでの日本ブランドの存在は小さくないようだ。

経 済

コロナ禍から復活したチャンギ空港（シンガポール）

昨年12月中旬、チャンギ空港の利用者数がコロナ禍前の75%まで回復した。入国規制のあった昨年3月にはコロナ禍前の18%だった利用者が、4月にワクチン接種完了を条件に、全ての国・地域から隔離なしの受入を開始し、急増した。結果、当初の目標であった年末までにコロナ禍前の50%以上へ回復、という目標を大きく超えたとのことだ。

アジア太平洋地域全体を見回しても、これほどの活況を呈している空港はない。同エリアのライバルといえるバンコク・スワンナプーム空港、ソウル・インチョン空港と比べても、利用者数でチャンギ空港が大きく先行しているとのことだ。

今後は中国からの渡航者も増加することから、チャンギ空港はさらに賑やかになるだろう。

社会・時事

国の発展を継続させるために必要な教育とは（シンガポール）

「2023年シンガポールの展望」という会議に登壇したチャン・チュンシン教育相が述べた、同国の教育分野での5つの重点課題について紹介する。

始めに、早期教育段階での恵まれない環境の子供への投資の必要性。次に、15歳までの教育だけでなく、その後50年間の継続学習に対して、個人、企業が責任を持つこと。3つ目に新しい価値を企業へもたらすための産学連携の推進。4つ目に教育機関だけではなく、両親、コミュニティ、企業が教育に関与すること。最後に、特別支援教育を含むすべての教育者に対する投資が必要であること。

挙げられているトピックは、日本でも課題になっているものが多い。今後、教育分野でも日本とシンガポール間で知識・経験が共有できれば素晴らしい。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経済

久しぶりの開催。熱気あふれるタイ旅行博

3年ぶりに開催された旅行博「Visit Japan FIT Fair」に参加した。会場は、一流ブランドが多数入居するバンコク中心部の高級ショッピングモール。今回は浜松市と共同でブース出展し、県内の観光地を紹介した。

平日にも関わらず、初日の金曜日から非常に多くの来場者に静岡県ブースへ足を運んでいただき、たくさんの質問を受けた。「河津でなく南伊豆の河津桜スポット」、「浜松フラワーパークの藤が咲く時期」や「県ウェブサイトに掲載された富士山とお茶畑のスポットへの交通手段」など、静岡への訪問を見越した具体的な問い合わせが多く、手ごたえを感じた。

タイは個人旅行客が多いことから、会場には鉄道パスやレンタカーなどを販売する企業ブースが目立っていた。また、コロナ禍前にはあまり見なかったアウトドア・スポーツといったテーマで商品を販売する旅行会社もあった。

3日間のイベントに参加し、タイ人来場者の訪日旅行に対する熱気に圧倒された。そして、コロナ禍前には年間で130万人を超える訪日者があった同国から、引き続き多くの方に日本、静岡へお越しただけであるだろうことを確信した。

経済

若い人材の宝庫。インドネシアでのジョブフェア開催

1月下旬の2日間、インドネシア・西ジャワ州で大学・大学院卒の人材を対象とした合同面接会を実施した。就職面接会には、県内企業8社及び4つの社会福祉法人が参加し、書類選考を通過した約100名の現地求職者と面接を行った。

面接の後、現地参加いただいた企業関係者に聞き取りを行ったところ、多くの方が学歴や日本語能力など、インドネシア人求職者の質の高さに驚いていた。参加企業の反応が良かったことから、多くの内定者が出ることを期待している。

社会・時事

新型コロナ終息宣言が出される（シンガポール）

国内の感染状況が安定していることから、シンガポール政府は2月9日に新型コロナウイルス流行の終息を発表した。これにより2月13日以降は、公共交通機関でのマスク着用義務は撤廃。入国規制も廃止され、ワクチン接種未完了者のPCR検査の陰性証明提示が必要なくなる。また、保健省による毎日の新規感染者数の統計データ公表も終了になるなど、シンガポールでは新型コロナが季節性インフルエンザと同等の取り扱いとなった。今回の措置により、日常生活の中でのコロナ対応はほぼ必要なくなった形だ。

ただ、通勤電車の様子を見てみると、2月13日には9割以上の乗客がマスクをしており、2月下旬になってもマスクをしている人が6割程度はいる感覚だ。政府の宣言が出されても、コロナ禍で習慣となったマスクをすぐに外すことは心理的に難しいのかもしれない。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経済

溢れる日本旅行熱、シンガポール旅行博

3年ぶりに対面で開催された旅行博「Japan Travel Fair」に参加した。会場は、シンガポール中心部の巨大ショッピングモール。今回は浜松市と共同でブース出展し、富士山・浜松エリアを中心に、春から夏にかけてお勧めの県内観光地を紹介した。

同時期にシンガポール旅行代理店協会が開催する別の旅行博（NATAS Travel Fair）が実施されたため、来場者が減るのではないかと心配があった。しかし、パンフレットの追加が必要になるほど多くの方に静岡ブースへお越しいただき、心配は杞憂に終わった。

来場者の多くは東京～大阪間でどのように過ごすか検討中の個人旅行者だ。これらの方々には富士宮、伊豆に加えて、桜・チューリップ・藤が見頃となる浜松フラワーパークがよく響いたようだった。コロナ禍前と比べると、日本滞在期間は長くなり、大家族での旅行、レンタカーでの移動が増えた印象がある。また、富士山登山やパラグライダーなどに興味を持つ方も多くなっているため、シンガポールマーケットに向けて、県内での新しい体験プログラムを提案していく。

経済

チャーター便運航に合わせてベトナム旅行会社へ静岡セールス

3月下旬に富士山静岡空港との間でチャーター便が運航されたハノイの旅行会社を回り、県内観光地を各社ツアーへ追加いただくようセールスした。

ベトナムは東南アジアの多くの国とは違い、日本への入国にあたりビザが必要となる。個人でのビザ取得は簡単ではないことから、日本旅行はグループツアーが一般的。そのため、日本旅行商品を販売する旅行会社への営業がそのまま来静客の増加につながるマーケットだ。

多数の会社が東京～大阪間のツアーを中心に販売しており、御殿場プレミアムアウトレット、県内での新幹線乗車体験、浜松市でのホテル泊などを取り入れていただいている。また、河津桜がかなり認知されており、2月～3月にかけてのツアーでは伊豆を訪問いただくものもあった。一方、シンガポールやタイと比べると、より安価な商品を求める方が多い現状もある。しかし人口が1億人を超え、今後も発展が見込まれる同国は、長い目で見ると非常に重要なマーケットだ。そのため、継続して現地旅行会社との関係構築に力を入れていく。

社会・時事

ASEAN各国の日本への信頼と人気

シンガポールのシンクタンク ISEAS（ユソフ・イサーク研究所）がASEAN10カ国の約1,300人を対象に行った最新の意識調査結果を公表した。レポートにあった日本に関する興味深い記述を2点紹介する。1点目は地域の信頼できる大国として、アメリカ(54.2%)、EU(51.0%)を押さえて日本が1位(54.5%)であること。そして2番目に、訪問したい国でもEU(15.3%)やアメリカ(9.7%)を押さえて1位(27.3%)となったことだ。経済的な影響力は弱くなっているものの、ASEAN内での日本の存在感はまだまだ健在である。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

巨大な会場に人が溢れるマレーシア旅行博

クレアシンガポール・ブースの一部を借りて、旅行博「MATTA Fair March 2023」に参加した。巨大な展示会場の1～3階を使用して開催された旅行博には、周辺地域で渋滞が発生するほど多くの来客があった。

マレーシアでは、日本全体についての大まかな質問が多く、具体的な訪日予定のない方も多い印象だ。県内観光地の細かい情報に関する質問が多いシンガポールやタイの旅行博とは、少し状況が異なる。

翌日に開催された旅行会社との商談会では、各社15分と時間は限られていたものの、1日で10社以上の旅行会社と話ができた。多くの旅行会社が東京―大阪間の似たようなツアー商品を販売していたので事情を聞いたところ、人手不足などの理由から日本国内のランドオペレーターの提案を採用しているとのことだった。他の東南アジア各国でも似たような状況であるため、県内関係者と協力して日本国内、海外の両方から静岡を売り込んでいく。

社会・時事

超高齢化社会へ向けた心構え（シンガポール）

2026年には人口の21%が65歳以上となり超高齢化社会を迎えるシンガポールで、新しい社会を迎えるための心構えを、リー・シェンロン首相が述べた。

首相は、個人レベルで長寿について前向きにとらえること、家族が高齢者と繋がりを持つこと、雇用者は高齢者の経験や価値を引き出しサポートすること、そして社会全体でも同様に高齢者が尊敬される社会づくりが重要であることを強調した。

政府は以下の三段階でこのような社会づくりに取り組むとのことだ。第一に人口動態の変化に合わせた定年及び再雇用年齢の引き上げ、第二に老後に備えた年金等の資産形成支援、最後に需要が増大する医療システムの強化である。

日本とシンガポールはともに、高齢化という課題でトップランナーを走る国だ。この分野でも知識と経験を共有していけるだろう。

社会・時事

素晴らしい罰金の街シンガポール？

シンガポールでは様々な行動に罰金が科される。「Fine」の「素晴らしい」と「罰金」の二つの意味をもじって「Fine City」と呼ばれることがあるほどだ。例を挙げれば、電車での飲食500ドル・喫煙1,000ドル、ゴミのポイ捨て300ドル、鳩へのエサやり500ドル、公衆トイレの流し忘れ150ドルなどキリがない。6月1日からはさらに、屋台街でのトレー・食器の片づけ忘れとゴミのポイ捨てへの罰則が強化されるそうだ。

これらの罰金は、多様な民族と宗教からなるシンガポールの秩序を維持するためとのことだが、生活している中で息苦しく感じることもある。ただ、罰金は払いたくないので、うっかりがないように注意して暮らしている。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

タイ旅行会社への静岡セールス

4月下旬にバンコクの旅行会社を訪問し、県内観光地をPRするとともにタイの観光マーケットの状況を聞き取った。

コロナ禍前と比べて日系、現地系ともに旅行会社が注力する分野が、募集型企画旅行から高単価のインセンティブ旅行に移行した印象だ。一方で、3泊4日で九州を訪問する23,000バーツ（約9万円）程度の格安団体旅行の販売も伸びている。タイは元々個人旅行者が多いことから、中価格帯の団体旅行商品は難しい状況に置かれているようだ。

県内観光地では、御殿場プレミアムアウトレットや三島スカイウォークに加えて、伊豆の温泉、河津桜の評価が高く、新施設として紹介した「スイーツバンク」や「KADODE OOTIGAWA」の評判も上々だった。

県内観光関係者から、最近タイ人の観光客をよく見かけるとい話を聞く。さらに多くのタイ人の皆様に静岡へお越しいただけるよう個人旅行者も含めて静岡県魅力を発信する。

社会・時事

データで見る高所得国シンガポール

シンガポール統計局が発表した2022年の家計所得に関する報告書によると、世帯所得の中央値は月額10,099ドル（約100万円）と、日本の世帯所得中央値である月額36万円強（2021年調査）の3倍近い水準となっている。

所得階層別にみた前年比較では、上位10%の最高所得者層を除き、すべての階層で前年よりも収入が増加している。特に最低所得層は10.1%と最大の伸び率を示しており、持てる者と持たざる者との格差が縮まっている。この数字を証明するかのように、所得の不平等さを示すジニ係数は2021年の0.444から0.437へ低下した。ジニ係数は1に近いほど所得格差が大きいことを示すため、数字の低下は国内の格差が減少していることをあらわす。

不確実性の高い世界経済下において、国内の所得格差を是正しながら、国民が豊かになっているシンガポールが羨ましい。

社会・時事

経済発展だけでなく文化芸術を（シンガポール）

かつて「文化の砂漠」と揶揄されたこともあるシンガポールでは、アート分野の取組が盛んだ。今年1月にはアートフェア Art SGが開催され、現在はアートギャラリー集積地 Gillman Barracks の再開発が進行中、来年にはシンガポール芸術大学の開学も予定されている。

しかしながら、週末に美術館を訪問しても人はまばらで、まだまだ多くの国民が文化芸術に関心を持っているとはいえない状況だ。

政府主導の経済政策で成功したシンガポールが、文化芸術の分野でも国民を巻き込みながら成果を上げられるか期待したい。また、様々な機会を利用して東アジア文化都市に選ばれた静岡県の文化を広報していく。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

世界各地の旅行会社へ向けた静岡PR（マレーシア）

するが企画観光局と共に、太平洋アジア観光協会がマレーシアのクチンで開催した旅行商談会に参加し、欧米豪やインドを中心とした世界各地の旅行会社25社と商談を行った。普段付き合いのある東南アジアの旅行会社とは異なり、日本旅行商品を持っていない企業が多く、短い時間で日本および静岡県の魅力の説明するのに苦労した。しかしながら、注目しているインドの観光関係者から現地の状況について様々な話を聞くことができ、貴重な機会となった。日本旅行に関心はあるが、まだ訪れたことがない方が多いとのことで、インド市場に大きな潜在力を感じた。

今年度は、するが観光企画以外にも、浜松市、島田市、美しい伊豆創造センターなど、県内各地の関係者と協力して東南アジア各国で観光事業を行う予定だ。地域全体が一丸となり、積極的に新市場にも進出していきたい。

経 済

東南アジア最大のEコマース市場インドネシア

シンガポールの調査会社が発表した2022年の東南アジア6か国のEコマース市場レポートが興味深い。結果の中で特筆すべきは、インドネシアが流通総額の半分以上を占める巨大市場であるという点だ。インドネシアの市場規模は519億米ドル（約7.5兆円）、その他の国ではタイが144億米ドル、フィリピンが115億米ドル、ベトナムが90億米ドル、マレーシアが87億米ドル、シンガポール40億米ドルとなった。

企業別のシェアを見ると、すべての国で「ショッピー」が1位であり、多くの国で「ラザダ」が2位となっている。ただし、インドネシアでは、地元企業の「トコペディア」が僅差で2位につけた。将来の展望としては、各国とも現在はシェア数%程度の「TikTok ショップ」の成長が予想されているとのことだ。

当所でも効果的にオンラインを活用して、県産品の販売拡大に取り組んでいく。

社会・時事

世界第2位の超高層ビルがオープン（マレーシア）

マレーシアの象徴として、多くの方がペトロナス・ツインタワーを思い浮かべるのではないだろうか。しかし、近い将来、このイメージが変わるかもしれない。なぜなら、首都クアラルンプールにまもなく新しい高層ビル「Merdeka（ムルデカ）118」がオープンする予定だからだ。このビルは678メートルの高さを持つ118階建ての超高層ビルとなる。テナントには、オフィス、ショッピングモール、高級ホテルのパークハイアットなどが入居予定である。このビルは、ドバイのブルジュ・ハリファ（828メートル）に次ぐ世界で2番目に高いビルになるとのことだ。

今年3月の出張で、遠くからでも目立つ大きさのムルデカ118に驚いた。しかし個人的には、夜にライトアップされたツインタワーの美しさには勝てないのではないかと考えている。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

シンガポールの高所得者層に向けた静岡ツアーPR

JTBシンガポールが主催した日本旅行フェアに参加し、県内観光地をPRした。今回のイベントは、同社の優良顧客及び現地銀行のクレジットカード登録者向けに案内され、瞬間に定員に達したとのことだ。来場者の大半は経済的に余裕のある中高年のカップルで、紹介された旅行商品はどれも1人50万円程度からと、高価なツアーが多かった。県内の訪問地としては、駿河湾フェリー、三島スカイウォーク、御殿場プレミアムアウトレット、堂ヶ島洞くつめぐり遊覧船、伊豆の温泉やみかん狩りなどが含まれている。

参加者の多くは年に複数回日本を訪問される方たちで、今年の秋にクルーズで清水港など日本各地を回る人や、年末に三島を訪問予定の方もいた。多くの方が値段よりも内容を重視し、各地の特別な訪問先や体験を探されているようだ。

観光業の人手不足など、日本側の事情を考慮しても、今後はより高単価な来静者が求められるだろう。所得の高い客層という点で考えると、東南アジアではシンガポールが最も有望なマーケットである。そのため、同国を中心に高単価の旅行者が増えるよう、旅行会社だけでなく個人客にも県内観光地の魅力を訴求していく。

経 済

深刻なドライバー不足問題（シンガポール）

2024年問題が話題の日本と同様に、シンガポールでもドライバーの人手不足が深刻な課題となっている。最近では、スクールバスの運転手が足りず、運営会社が学校との契約を打ち切る事例が発生している。

シンガポール教育省はこの問題への対応として、外国人運転手の採用枠拡充、料金や契約期間の柔軟化、タクシー乗降場でバスの停車を可能とするなど特別措置を検討している。しかし、タクシーや観光バスでも人材不足の問題が発生しており、根本的な解決方法は見つかっていない状況だ。

社会・時事

多くの海外来場者を呼び込む大物歌手のコンサート（シンガポール）

7月上旬のシンガポールは、アメリカ人歌手テイラー・スウィフトのコンサートチケット販売の話題で持ちきりだった。今回のツアーの東南アジアでの開催地がシンガポールのみとなり、ASEAN全域からチケット購入者が殺到したと報じられている。新聞やテレビでは、チケットを手に入れるため仕事を休んでパソコンにかじりつく人や、発売開始の24時間以上前からチケットを販売する郵便局に並び始める人々の光景が報道された。

このコンサートの経済波及効果は非常に大きく、ライブが開催される来年3月のシンガポール行きの航空券やホテルの需要も急増しているということだ。エコパなどの大規模施設を持つ静岡県でも、国内外から訪れるコンサート来場者に向けた観光PRが可能だろう。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

インドネシアの訪日旅行市場

コロナ禍後初めて、インドネシアで開催された旅行博に参加し、富裕層が多く住むジャカルタ南部の大型ショッピングモールで、自治体国際化協会シンガポール事務所のブースを借りて県内観光地をPRした。

ブースを訪れた人々の関心は、地域別にみると北海道が最も高く、次に東京、大阪、そして富士山エリアと続く。静岡県に関連する相談では、「富士山がよく見えるおすすめの場所」や「御殿場プレミアムアウトレットとあわせて訪問できる観光地」について多くの質問を受けた。また、「東京から1泊程度で行ける面白い場所」や「東京-大阪間で立ち寄れるおすすめのスポット」などの相談に応じて、時期にあわせた県内観光地を案内した。中には、「熱海と富士宮を訪問して温泉やお茶を楽しみたい」という方もおり、コロナ禍以前と比較すると、日本へ複数回訪れ、都市圏以外に興味を持つ人々が増えた印象がある。

2023年7月のインドネシアからの訪日外国人観光客数は28,500人と2019年7月の25,215人を上回った（JNTO推計値）。また、インドネシアは人口2億7千万人と東南アジア最大の国であり、今後も大きな成長が見込まれている。さらに、静岡県内には多くのインドネシア人が生活しており、県の友好自治体である西ジャワ州も存在する。これらパートナーの力も借りながら、多くのインドネシアの方々に静岡県を訪れていただけるよう取り組んでいく。

社会・時事

毎年8月に実施されるシンガポールの施政方針演説

8月下旬にテレビ中継されたリー・シェンロン首相の施策方針演説を視聴した。独立記念日のある8月には、各所で国旗がはためき、大規模なパレードが開催されるなど、国中が祭りの雰囲気包まれる。パレードに続いて8月下旬に実施される首相のテレビ演説は、生活に直結する施策について語られるため、国民の注目を集める行事となっている。

首相はまず初めに、世界的な課題が増加しており、国内では雇用確保、住宅供給、生活費高騰が政府の対応すべき挑戦項目であると述べた。続いて、国民の生活不安に対応するための施策として、「50～60代の人々への金銭的なサポート」、「新しい公営住宅施策」、「失業者支援」、「高齢者に優しい環境づくり」等のトピックが紹介された。この中から「50～60代の人々への金銭的なサポート」について説明する。

リー首相は1973年以前に生まれた50代以上の人々を「ヤング・シニア」という新しい呼称で呼び、1950年代以前に生まれた世代と比較して国の経済成長の恩恵を受けつつも、30～40代の若い世代と比べて生涯年収が少なく、老後に不安を抱える人々が多いと紹介した。そうした中低所得層の人々に対して、年金積立のために年間1,000ドル（約10万円）の支援が行われるほか、年金が一定額に達していない人には最大1,500ドル、また医療費支援として最大1,500ドルが支給される。政府はこれらの施策を実施するために70億ドル（7,000億円）の追加予算を計上する予定だ。

日本でも就職氷河期世代に対する就職支援が話題となっているが、シンガポールでも経済的な恩恵を受けられなかった特定世代に向けた施策を実施するところが興味深い。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

静岡県のものづくり文化と観光の魅力を同時にPR（シンガポール）

シンガポール日本大使館、するが企画観光局及び株式会社タミヤのシンガポール・ディストリビューターStargek 社の協力を得て、当県のものづくり文化と観光の魅力を発信するイベントを実施した。

当日は、シンガポール中心部に位置する Japan Creative Centre に、プラモデルや観光パネルを展示するとともに、ミニ四駆を実際に走らせるための大型サーキットを設置。同時に、観光セミナーやミニ四駆組立ワークショップといったプログラムを提供した。更に、来場者にはシンガポールで購入可能な静岡茶を提供し、味覚でも静岡を堪能いただいた。

広報開始後、即日で満席となった当イベントには、小さな子ども連れの家族から、高齢の御夫婦まで幅広い層のシンガポール人が参加した。開始前には、ミニ四駆の組み立てに不安を抱いていた方もいたが、ワークショップが始まってみれば、皆楽しんでプラモデルを制作していた。多くの方が興奮しながら完成したミニ四駆をサーキットで走らせ、その様子をスマートフォンで撮影する光景が特に印象に残っている。

このイベントを通じて、産業、観光、食といった静岡県が持つユニークなストーリーを包括的にシンガポールの方々には伝えられたと考えている。今後も様々なパートナーから助力を得ながら、静岡の魅力を幅広い層のシンガポール人に伝える方法を模索していく。

社会・時事

12 年ぶりの大統領選挙（シンガポール）

9 月 1 日に実施されたシンガポール大統領選挙で新大統領に元上級相兼社会政策調整相のターマン・シャンムガラトナム氏（66 歳）が選出された。

8 月 22 日に告示された選挙は、ターマン氏の他に、政府系投資会社 G I C の元最高投資責任者ウン・コックソン氏（75 歳）、大手保険会社の元 CEO タン・キンリアン氏（75 歳）が立候補し、三つ巴の選挙戦となった。過去 12 年間は、無投票で大統領が選ばれたため、今回の選挙は多くの国民が注目するイベントとなったようだ。

今年に入ってから与党・人民行動党内では、汚職疑惑での大臣逮捕や国会議員同士の不適切な関係など不祥事が続いていた。こうした状況下での選挙であったため、選挙前は与党の大物国会議員だったターマン氏に逆風が吹く可能性が指摘されていた。しかし、蓋を開けてみれば、ターマン氏は 7 割以上の票を獲得し、他の候補者を引き離しての圧勝だった。

新大統領の任期は 6 年。国家元首としての象徴的な存在で、儀礼的な役割を担う。しかし、政府準備金の引き出しや、政府機関幹部の任命に対する拒否権など、一部政権に対するチェック機能も担っている。

余談だが、ターマン新大統領の配偶者は、日本人の父親と中華系シンガポール人の母親を持つジェーン・ユミコ・イトギ氏。新大統領だけでなく、新しいファーストレディーを通じて、シンガポールと日本とのさらなる関係深化を期待している。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

ベトナムの旅行会社、航空会社が見た静岡の魅力

浜松市・するが企画観光局・美しい伊豆創造センターなど県内の様々なパートナーから協力を得て、10月中旬の3日間、東南アジアの中でも訪日旅行の潜在需要が高いベトナムの観光関係者を対象に静岡ファムトリップを実施した。来静したベトナム航空、ハノイ及びホーチミンの旅行会社10社に、浜松城公園、花の舞酒造、イオンモール、KADODE OOIGAWA、玉露の里、日本平夢テラス、富士山静岡空港、駿河湾フェリー、伊豆パノラマパークなど多様な施設を紹介した。

ファムトリップ参加者への聞き取りでは、お茶体験や酒蔵訪問、また日本平、駿河湾フェリーや伊豆パノラマパークからの美しい景色の評価が高かった。一方、改善点としては、ベトナム人観光客が日本で楽しみにしているショッピング体験の向上（クーポン配布等）、桜や紅葉以外の時期でも楽しめる景観地があるとよい、などの意見をいただいた。

今回静岡を訪問いただいた旅行会社の中には、既に新規で来年の河津桜ツアーを検討いただいている企業がある。今後現地を訪問し、より多くの商品で静岡県を採用いただけるよう働きかけていく。

経 済

銃撃事件にも関わらず盛況な日本旅行博（タイ）

一流ブランドが多数入居するバンコク中心部の高級ショッピングモールで開催された旅行博「Visit Japan FIT Fair」に浜松市と共同でブース出展し、県内の観光地を紹介した。

イベント数日前に同モール内で起きた衝撃的な発砲事件（10月3日に同モール内で銃撃事件があり2人死亡）の影響により、訪問者が大幅に減少することを心配していた。しかし、蓋を開けてみるとオープン直後の出足は鈍かったものの、土曜日、日曜日は会場全体、そして静岡県ブースへの来場者が途切れることはなく、最終日の夕方まで混雑が続いた。

受けた質問も、「浜松フラワーパークの様々な花が咲く時期」、「富士登山ルート3776について」、「河津桜が終わった3月中旬に桜が見られる場所」など、県内への訪問を見越した具体的な内容が多く、手ごたえを感じた。

3日間のイベントに参加し、タイ人来場者の訪日旅行に対する熱量に圧倒された。そして、近い将来に訪日者数がコロナ禍前の水準まで回復するであろうことを確信した。

社会・時事

国父リー・クアンユーの生誕100周年（シンガポール）

今年は、シンガポール建国の父と言われる初代首相リー・クアンユーの生誕100周年を記念する年だ。そのため国立博物館での特別展示、記念の10ドルコイン発行など様々なイベントが実施されている。

ストリーミングサービスのネットフリックスが同氏を紹介する番組の配信を開始すると、それまで視聴回数が1位だった日本の漫画ワンピースの実写版を抑えて、同番組がシンガポール・テレビ番組の再生回数トップに躍り出た。シンガポール繁栄の基礎を作った同氏の人気はまだ衰えていないようだ。

東南アジア駐在員報告

駐在員：竹田 敏彦

経 済

第4回静岡・シンガポールアグリフードフォーラム開催

当所では、AOIプロジェクトが海外展開の取組として行っているシンガポールの工科大学（ポリテクニク）等との連携を、シンガポール側からサポートしている。昨年度、シンガポールで実施された農業関連の先端的取組発表のフォーラムを、今年は静岡県がホストとなり、11月上旬に沼津市のプラサヴェルデで開催した。当該イベント参加のため、共催団体であるシンガポール技術教育学院（ITE）、リパブリックポリテクニク、テマセクポリテクニク、およびハイテク農業企業の関係者約20人が来静した。

フォーラムは、森副知事とITEのローCEOの挨拶から始まり、静岡県の株式会社Happy Quality、シンガポールのArianetech社による基調講演、さらに静岡とシンガポールの関係者によるパネルディスカッションへと続いた。午後にはこれまでのビジネスマッチングの成果と、新しいパートナーシップを模索する企業や研究機関からの技術発表が実施された。国内外から対面およびオンラインで200人以上が参加し、イベントは成功裏に終了した。

シンガポールは、現状10%未満の食料自給率を2030年までに30%へ引き上げることを目標としている。この高い目標達成のため、本県が持つ技術や人材交流に対するシンガポール側の期待は大きい。来年シンガポールで開催される予定の第5回フォーラムには本県から多くの関係者が来星し、ビジネスマッチングや人材交流がさらに発展することを期待している。

経 済

人気シェフが見た本県食材の魅力（シンガポール）

シンガポール国内外で多数の日本食レストランを経営するTEPPEI社の日本人シェフを本県へ招聘し、県庁での商談会および産地訪問を行った。

今回の本県訪問では、野菜、魚介類、調味料等関係企業との商談に加えて、料理にお茶を合わせて提供するティーペアリングに使用する静岡茶を探すため、多くの製茶企業や茶園を紹介した。

帰国後の打合せで、珍しい野菜と魚介類、そして個性的なお茶を試すことができ非常に有意義な訪問になった、とフィードバックをいただいた。

来年2月に開催予定の同レストランでの静岡県フェアで、多くの静岡県食材を活用いただけるようフォローアップを継続していく。

社会・時事

産業界が求める能力は？（シンガポール）

シンガポールの政府系機関スキルズ・フューチャー・シンガポールが発表した今後2年で需要拡大が見込まれる技能が興味深い。レポートでは、有望な分野として、「ケア産業」、「インダストリー4.0」、「デジタル産業」の3つをあげている。また、当該リストには含まれていないものの「グリーン経済」分野に関連する技能も多く企業が求める能力となっているとのことだ。一方、既に人工知能等の高度技能をもつ労働者に対しても継続学習の必要性が述べられるなど、シンガポールで市場価値のある人材でいることの厳しさが見える。